

今度はジョジョ二部へ

犬大好き

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

二部にも来たよ

ひとまず書く

目次

第二話 第一話

10 1



ジョセフ「おばあちゃんまさか・・止めんじやないでしょうね」  
エリナ「いいえ！個人の主義や主張は勝手！許せないのは私共の友人を公然と侮辱したこと！他のお客に迷惑をかけずにきちつとやつけなさい！」

止めたほうが良いかな

もめ事は面倒だ

ジョセフは瞬殺したよ

身なりのいい男「すいませんが、少しいいですか？マダム・・あなたはエリナ・ジョースターさんでしょうか？私はスピードワゴンさんに大変世話になってやしてねあなたのことも以前ロンドンで教えられて知ってるんですよ会えてよかったですき知った裏の情報でまだこの国の新新聞屋とかには知られてねえんだがスピードワゴンさんが殺されましたぜ・・うわさでは殺ったのはチベットから来た男」

ガタツ

ユウナ「スピードワゴンが殺されたって本当かよ！」

身なりのいい男「え？」

ジョセフ「いきなりなんだ？あんたも知り合いなのか？」

ユウナ「そういうレベルじゃねえ、一緒に戦った仲間だぜこっちは・・」

ジョセフ「戦った？」

男に近寄る

ユウナ「それは、確かな筋の話なのか!？」

身なりのいい男「だと私は聞いているが・・」

エリナ「なんですと！スピードワゴンさんが！」

モブ「ちよいと邪魔よカラダのでかいおにいさんとそこ通しなよ！」

ジョセフ「やかましい、忙しいんだ向こうまわれ！スピードワゴンのじいさんが死んだだと・それもやったのはチベットから来た修行僧！ストレイツオとかのことか！」

ユウナ「ストレイツオ・アイツか・アイツが・・殺したのかよ！」

ジョセフ「あんた知ってるのか！」

ユウナ「一緒に戦ったんだぜ？ ジョナサンやツエペリさんと・身なりのいい男「メキシコ奥地の河で流れ着いたスピードワゴンと  
その一行の二人らしい死体をを発見した者の話だ。どこでなぜ殺されたのかも修行僧がどこへ行ったかも誰も知らない」

エリナ「わ・わかるような気がする・・・きつと・・多分スピードワゴンさんがかつて話してくれた石仮面とディオ・それにまつわる  
ことのような気がする・・」

ユウナ「ディオ・あれがまだ・・続いている・・・？」

ジョセフ「さつきから、聞いてるとその時そこにいたみたいの話し  
やがるが・・あんたは一体誰なんだ？」

ユウナ「俺か？」

ぼうしをとる

ユウナ「ユウナだ、ユウナ・ブランドー」

エリナ「ユウナだって!？」

ユウナ「久しぶりだな、エリナ」

エリナ「50年前に消えてからどこにいてたんだい！」

ユウナ「あの世かな？」

間違っではないよな？

エリナ「あの世って・・まあまた会えただけいいわね」

ジョセフ「あんた今何歳なんだ？」

ユウナ「合計だと七十はいつてるんじゃないか？」

ジョセフ「ななっ!?嘘行っつてんじゃないか！」

ユウナ「嘘じゃないんだけど・・」

二回死んでるし

ユウナ「さて、さつきの話が本当なら、ここにストレイツオが来そう  
だな」

ジョセフ「それもそうだな、ばあちゃん。歩けるか？」

エリナ「え、ええ大丈夫・」

ユウナ「私はもう少しこの町にいるまた明日」

次の日

レストラン

スモーキー「今日は冷えるなあ！」

ジョセフ「おい！おいスモーキー、この雑誌のここみるよ！」

スモーキー「なんだよ!？」

ジョセフ「いいから見ろよこいつを」

胸に手を当てながら言う

ジョセフ「これもしかすつとこ盛り上げるやつかよオホヘーツ」

スモーキー「なにになに？AAカップがCになる・・・ペアで1ドル2

5セントか。ヘーツ！だまされるぜー気をつけよーぜなあ！」

ユウナ「そこまでしてでかく見せようとする奴の頭がわからんね」

ジョセフ「おや！」

外にストレイツオがいる

ユウナ「お先にどうぞ」

ジョジョが外に出て少しすると

ダダダダダ

ジョジョがストレイツオに向かって打ってるみたいだが、ガラスな

ので流れ弾が飛んでくる

女性「きやああああーっ!!」

ユウナ「イフリート、弾を取れるだけとれ」

ススス

撃ち終わったみたいだ

ユウナ「いきなり撃ってくるなよ」

ジョセフ「すまん、すまん」

男性「さ・・・殺人鬼が中に入ってくるぞ！」

ユウナ「お前殺人鬼扱いされてやんの」

スモーキー「ジョ・・・ジョジョ・・・き・・・君！たたたたた・・・大変

なことを！」

ジョセフ「そ・・・そうだな、ちつと修理代が高くつくなこれは」

スモーキー「違うーツき・君は人を！なんてことを！君は人を撃つ

たッ！」

ユウナ「人だったらいいんだがな」

ジョセフ「人だったら、俺たちが刑務所に入るだけでいいからな！」

スモーキー「気でも狂ってしまったのかアーツ!?」

女性「キヤー!キヤー!」

ユウナ「喚く暇があったら逃げな!喚いててどうにかなるのか!」  
走って出て行った

ジョセフ「スモーキーも店の外に出ておけ、ここからは俺たちがやる」

スモーキーも出て行った

やはりストレイツオは生きていた

ストレイツオは撃ち込まれた弾をすべて出した

ユウナ「本当に残念だ、お前が吸血鬼になるなんて・・・」

ストレイツオ「お前は・・・ユウナだったか・・・なぜ、その姿なのだ?」

ユウナ「何を言ってるんだ?」

ストレイツオ「なぜ貴様は、年を取っていない!!」

ユウナ「知るかよ、だがな。少なくともお前は吸血鬼になるべきではなかったな」

ストレイツオ「どういう意味だ?」

ユウナ「本気でキレたぞ、お前は吸血鬼なんか」

踏み込む

ユウナ「なり下がってしまった」

ストレイツオの前まで来て

腕に波紋を流す

ストレイツオ「何イ!!」

ジュウウ

ストレイツオ「うおお!!」

ジョセフ「ユウナ!どけ!」

カチツカチツ

ストレイツオ「弾切れのようだな、そして!これが私が最初に使う能力は、ディオがジョナサンを殺った能力!!高圧で体液を目から発射する名付けて空裂眼刺驚(スピースリバー・ステインギーアイズ)食らえっ!」

ゴオオオ

ドツドツ

俺とジョセフの額と喉に穴が開く

ストレイツオ「フン！他愛のないものよ、残るはエリナ・ジョースターただ一人・・・あの老婆は赤子を殺すより・・・」

ジョセフ「お前の次のセリフは「赤子を殺すより楽な作業よ」・・・だ！！」

ストレイツオ「楽な作業よ・・・ハッ！」

ニヤニヤ

あつ俺も死んでねーぞ

ジョセフ「さらにオメーは「こいつらなぜ穴開けられて生きていられるんだ？」・・・という」

ストレイツオ「こ・・・こいつら何故穴開けられて生きていられるんだ？・・・ハッ！」

ジョセフ「お前はチベットなど田舎何時に引っ込んでねーで都会でもまれたほうがよかつたな・・・ほんのちよい注意深けりやあゲームに勝てたのによオ！よく見ろよこの時計の！文字盤をよ！」

時計の文字盤は左右逆・・・つまり鏡に映したようなことになっていた

ジョセフ「そして声のする方向にもな！俺は注意深いぜ！マシンガンは左手に持ち替えた！聞いていたぜ！俺のじいさんは目から飛び出す得体の知れねえ能力に死んだんだってな！」

ストレイツオ「鏡かッ！」

振りむく

ジョセフ「気づくのが遅いんだよアホレイツオ！」

銃の持ち手で殴る

ジョセフ「そして「波紋」ってのは太陽の光と同じでお前苦手なんだってな！食らえ！」

ドーン

ジョセフ「生まれつき！俺がする呼吸のリズムは奇妙なエネルギーを生むそうだぜ！！」

壁にストレイツオを叩きつける

ジョセフ「ゴオオオオオオオーツ!!くらえ!ぶつ壊すほど・・・  
シュートツ!」

ドオン

ジョセフ「どれ?「奇妙な波紋エネルギー」は吸血鬼の顔を溶かす  
そうだから、本当にそうなのかたしかめてみっかな」

ジョセフが近づこうとする

ピクツ

ユウナ「離れる!ジョジョ!」

ジョセフ「何!?!」

ストレイツオはまた能力を使い

一つはよけもう一つは首をかすった

ユウナ「どうして溶けていないんだ!?!」

ストレイツオ「このマフラーは東南アジアに生息昆虫サティポロ  
ジャビートルのほんのちよっぴりの腸の筋を3万匹分乾かし編んで  
作ったもの・・・この材質は人体よりも波紋の伝達率が高らかに高く  
散らしてしまう!つまり雷のアースと同じなのだ!」

ジョセフ「ほう・・・そうかい・・・そいつはスゲーな・・・だがよこ  
の俺が「波紋」とかいふチャチな超能力だけに頼っていると思ってい  
るのか・・・?素早いんだぜ俺は!」

ピンツ

ストレイツオ「ヌツ!ヌウ!手榴弾をマフラーにいつの間に・・・  
手榴弾を投げた

ストレイツオ「フン!こんな小細工ウ!」

ジョセフ「フハーツだから都会にもまれろって言ったのによ、よく  
見る今振り払った手榴弾には糸がたくさんついてるだろ・・・」

ピンピンピン

背中にたくさんの手榴弾!

逃げよ

ムンンンオオオオオオ

ストレイツオ「ン・・・こいつくく  
??????  
OOHHHH」

ユウナ「うおおお!!」

外に飛び込む

カツ

ボツ

ドーン

ジョセフ「や・・やったぜツ！」

中を見る

ジョセフ「う・・な・・なんだあいつは・・いったいあいつは何者なんだ!!」

スモーキーが中を見ようとする

ジョセフ「スモーキー見るんじやあねエー！」

スモーキー「もう見ちまったくくくこ・・こいつはそんなまさか！信じられない！わーッああくくく神様！お・・おいらもう悪いことはしません盗みもひったくりもしません！あ・・あの化け物をやっつける方法はあるのかジョジョ！」

ストレイツオは再生しようとしている

今のうちにそこらへんの花を調達

スモーキー「しゅっしゅっしゅ、しゅ・・手榴弾でぶっ飛んだのに！こんなやつを！こんなやつを！こんな化け物を！やっつける策がさらにあるのか！ジョジョ！」

ジョセフ「ああ・・あるぜ！」

スモーキー「ええ！あるのか!？」

ジョセフ「ああ・・たった一つだけ残った策があるぜ」

スモーキー「たったひとつだけ！そ・・それはいったい？」

ジョセフ「とっておきのやつがな！あの足を見ろ！奴は細切れになりすぎてまだ完全に回復しきれてねえ！そこが付け目だ！」

スモーキー「そ・・それでたった一つの策とは？」

ジョセフ「こつちも足を使うんだ」

スモーキー「足だって！足どうやって！」

ジョセフ「逃げるんだよオ！スモーキーッ!!どけーッ野次馬共ーッ!!」

スモーキー「わあ〜ッ!!なんだこの男〜ッ」

花に波紋を流し

指弾の勢いで両足に打ち込む

パンパン

ユウナ「アイツの足に波紋を流した、今のうちに逃げよう」

ブルート「よお〜しみてなベイビーこのブルートさまがああ野郎をぶちのめし警察に突き出して新聞でヒーローになってやるぜ!」

女性「あ〜ん・頼もしいわ!あたしのブルりん!」

ブルート「へへへ、おい!観念しな悪党」

ユウナ「イフリート」

イフリート「オラオラオラオラオラオラオラア!」

ブルート「グアア!!」

吹っ飛ぶ

ユウナ「ボラーレ・ヴィーア」

ジョセフ「何してんだ、逃げるぞ!」

ユウナ「もちろんだ」

ひとまず逃げる

## 第二話

橋

スモーキー「ハアハアア！ハアわーっつられておいら無関係なのに  
いっしょに逃げて来ちまったーッ!!」

ユウナ「大丈夫だ・最悪お前は逃がしてやるよ」

スモーキー「ハアハアで・でもここまで逃げてくればもう安心だ  
な・マルボロ吸う？」

ズリッ

ジョセフ「いや・スモーキーあの音を聞きな」

ズリズリズリ

スモーキー「音だつて・あ・河の音か・」

ズリズリッ

ジョセフ「違う、上だーッ!!」

ズリズリズリ

上にはストレイツオが女を動けなくし口に指を入れていた

スモーキー「うわーッ!!わーッあ・あいつおとおおっ追つてく  
るッ!に・逃げるーッ」

ジョセフ「待て！一体なんだあの女は？な・なんだ!?あの野郎ど  
ういうつもりだ・!?!」

女性「ああ・うう・助けて」

ジョセフ「なんだその女はッ!?!」

ストレイツオ「この女は人質！お前が逃げればこの女は殺す！だが  
ここまで登ってくれば女は逃がす！」

ユウナ「堕ちるところまで、堕ちやがったッ！」

ジョセフ「何考えてんだ、オメーッ！俺はそんな女は知らねーぜ！  
無関係の女なんか人質にとるんじゃねーぜ！このタコッ！」

スモーキー「その通りだね逃げようジョジョ！」

ストレイツオ「私はおまえを「試す！」ジョジョお前がどの程度の  
男かをな、この見知らぬ女を見捨てて逃走すればその程度の男と思  
いー私も肉体の疲労があるゆえーもう貴様を追わんスピードワゴン

の復讐に来る男ではない！だが！この女のため上つてくるとあれば！それは貴様の性格を証明するということだ、将来のお前の成長は私にとつて非常な危険となる性格だ！疲労はあるが、今直ちに全力を尽くし貴様を始末せねばならん！5秒後にこの女を殺す逃げるか上つてくるか決めろ！」

ジョセフ「でくくつ愛を誓った恋人ならともかくよオ！この俺がそんなブスのために戦えるかバーカ!!」

ユウナ「私には無理」

時を止めた

ストレイツオの後ろに来た

時は動き出す

ストレイツオ「殺し方はこのままアゴごと口を引き裂く、そのまま一気に引き下ろし喉の肉と胸の肉をえぐり取る！」

まだ気づかないのか

スモーキーが気付いた

シー

ジョセフ「！（わかった、気づかないふりだな）：へへへチベツトの「波紋法」の後継者ストレイツオともあろうお方がそんな女の子にむごいことするもんかい！」

ユウナ「少なくともさせねえな」

ストレイツオ「いつの間に後ろに!？」

ユウナ「その子は返してもらおう、クロノスザ・ワールド」

指を抜き下におろした

ユウナ「本当に隙だらけだぜ」

女性「え？え？」

ユウナ「死にたくなけりや逃げな！」

ストレイツオ「このおとおオオ!!」

ユウナ「アホレイツオは落ちやがれ」

コオオオオ

ユウナ「震えるぞハート！燃え尽きるほどヒート!!」

ストレイツオ「この私にそれが聞くと思っているのかア!!」

ストレイツオは離れていった

ストレイツオ「ここまで来れまい！お前よりも足の速さは私の方が格段に上だ！」

ユウナ「刻むぞ血液のビート！クロノスザ・ワールド」

時を止めて近づく

そして動き出す

ストレイツオ「何イイイイ!!?」

ユウナ「山吹色の波紋疾走（サンライトイエローオーバードライブ）ウウウウ!!」

オラオラオラオラオラオラオラ

下に落ちていく・・・が、ジョセフが腕を掴んだ

ストレイツオ「なぜ・・・私が落ちて行くのを止める!?お前の右腕を瞬時に吹っ飛ばす力が私にまだ残っているかもしれないのだぞ」

ジョセフ「うるせえやってみる！その時は左手でめえをブン殴る用意はできている、ひとつだけ聞きたいんだなぜスピードワゴンほか五人の死体を河へ捨てた？じいさんの遺体を見つけて墓に葬りたいこともあるが・・・どうもスツキリしねーぜ！スピードワゴンの死体を河へ捨てなければ誰にも知られず済んだことなのよ・・・!」

ストレイツオ「ジョセフやはりお前はジョナサンの血統を受け継ぐ男だな、表面上の態度はまるで違うがやはり謎や冒険に首を突っ込む性格！似てるなア！「石仮面」の謎に興味をもったジョナサンの性分に！そしてその性分ゆえにもはや逃れられない運命に「今」踏み込んだことを告げておこう」

ジョセフ「・・・!?なんのことだ？」

ストレイツオ「今に分かる・・・「柱の男」のことを！今に出会う「柱の男」に！」

ジョセフ「てめえわけのわからんことをふるんじやあねえ！俺が聞いているのはスピードワゴンのことだッ！」

ストレイツオ「わからんかもしれんが死体を河へ捨てた理由は「柱の男」のせいなのだ！洞窟内の「柱」が遺体共の流れ出る血を吸い始めたのだ植物が養分を吸収するように・・・不気味だった・・・柱

の男」が目覚めるようで・・だから外へ運んで河へ捨てたのだ！だがもうすぐきつと目覚めるだろうな血を吸ったのだから・・ヤツの4000年の眠りからな」

コオオオオ

ストレイツオ「どんな能力を持っているのか!?どんな生命体なのか!?見てみたかったがな！ジョセフ！近いうち・・きつと「彼」にあうだろう・・きつとわかるだろう「彼」の正体と生物進化の意味がツ！神が定めた運命のようにな」

ジョセフ「こ・・こいつツ!?ストレイツオ！お・・お前!?」

コオオオオ

ストレイツオ「私は後悔していない・・醜く老いさらばえるよりも一時でも若返ったこの充実感をもって地獄へ行きたい・・」

ジョセフ「こいつ「波紋法」の呼吸をしているツ!・・・ということとは自分の体内に「波紋」ができていくということ!」

ストレイツオ「若返ったことは我にとって至上の幸福だったぞジョジョ!」

ジョセフ「ストレイツオ!待て!話はまだ半分・・」

ストレイツオ「さらばだジョジョ!」

ボツシユウツ

ストレイツオは内側から破裂したように散っていった

ユウナ「ストレイツオ・・・あの世はそこまで悪いところじゃなかったぞ」

ジョセフ「おおおおおおーツ!!おおおおおーツ」

橋を渡った先

ジョセフ「大丈夫かよーツ!名前何てーの?家まで送ってくぜ」

グシヤア

ジョセフが顔面を殴られた

ブーッ

鼻血出てる・・・

ジョセフ「な!?!あだアーツあにしやがるツ!」

女性「あんたよくもさつき!あたしのことブスって言うてくれたわ

ね！ブスって呼んだその償いのパンチよこのタコ！」

ジョセフ「え？なんだっておいスモーキー俺そんなこと言ったか」  
スモーキー「うんいった：「ブスのために命がはれるか」とかなんとか」

ジョセフ「ホントー!?俺そんなこと言ったくく?イヤアくく変だなーッ!こんなかわいいこちゃんにおかしーなー」

ズガッ

今度はスネか

ジョセフ「でエくくくくッ」

女性「自分の言ったことも覚えてねーのかこのイモ！」

ジョセフ「おおおおおこのアマくく」

ユウナ「ジョジョ・・・これは全面的にお前が悪いぞ」

ジョセフ「・・・それにしてもストレイツオの言った「柱の男」が：：  
気になるぜ・・・言ってみつかメキシコへ！」